

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第1区分
【発行日】令和3年1月21日(2021.1.21)

【公表番号】特表2020-513245(P2020-513245A)
【公表日】令和2年5月14日(2020.5.14)
【年通号数】公開・登録公報2020-019
【出願番号】特願2019-530823(P2019-530823)
【国際特許分類】
A 2 4 F 47/00 (2020.01)
【FI】
A 2 4 F 47/00

【手続補正書】

【提出日】令和2年11月26日(2020.11.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

外側本体と、
加熱要素を含み、かつ外側本体に収容されたアトマイザと、
赤外線センサと
を備え、

赤外線センサは、アトマイザによって生成された赤外線を測定するように構成されているエアロゾル送達装置感知システム。

【請求項2】

赤外線センサに近接して位置決めされた第1の端部と、アトマイザに近接して位置決めされた第2の端部とを有する光ファイバケーブルをさらに備え、

赤外線センサが、光ファイバケーブルを介してアトマイザから受光した赤外線を測定するように構成されている、請求項1に記載のエアロゾル送達装置感知システム。

【請求項3】

赤外線センサに結合され、かつ赤外線センサによって画定されたセンサ開口の周りに延在する遮蔽装置をさらに備え、

光ファイバケーブルの第1の端部が、遮蔽装置に結合されている、請求項2に記載のエアロゾル送達装置感知システム。

【請求項4】

遮蔽装置が、光ファイバケーブルの第1の端部および赤外線センサと係合したときほぼ完全に密閉されることで、光ファイバケーブル内を通過していない赤外線がセンサ開口に進入するのを実質的に阻止する、請求項3に記載のエアロゾル送達装置感知システム。

【請求項5】

光ファイバケーブルが、第2の端部以外の場所で赤外線が光ファイバケーブルに進入するのを実質的に阻止するように構成された遮蔽層を含む、請求項4に記載のエアロゾル送達装置感知システム。

【請求項6】

赤外線センサが、外側本体内に収容されている、請求項1に記載のエアロゾル送達装置感知システム。

【請求項7】

エアロゾル送達装置感知システムが、エアロゾル送達装置を含む、請求項 6 に記載のエアロゾル送達装置感知システム。

【請求項 8】

赤外線センサからの信号に応答してアトマイザに供給される電流を制御するように構成されたコントローラをさらに備える、請求項 7 に記載のエアロゾル送達装置感知システム。

【請求項 9】

電子部品および電源をさらに備え、
電子部品は、カートリッジ内に配置されており、
電源およびコントローラは、カートリッジに脱着可能に係合するように構成された制御体内に配置され、

カートリッジが、制御体と係合する際、電源はコントローラと通信し、
コントローラは電子部品を介して赤外線センサからの信号を受信する、請求項 8 に記載のエアロゾル送達装置感知システム。

【請求項 10】

赤外線センサが、外側本体の外側に配置されている、請求項 1 に記載のエアロゾル送達装置感知システム。

【請求項 11】

赤外線センサを含む温度試験ユニットと、外側本体およびアトマイザを含むエアロゾル送達装置とを備える、請求項 10 に記載のエアロゾル送達装置感知システム。

【請求項 12】

外側本体と、加熱要素を含み外側本体内に収容されるアトマイザとを設けることと、
赤外線センサを設けることと、
アトマイザによって生成された赤外線を、赤外線センサを用いて測定することと、
を含む、エアロゾル送達装置の温度監視方法。

【請求項 13】

光ファイバケーブルの第 1 の端部を赤外線センサに近接して位置決めすることと、
光ファイバケーブルの第 2 の端部をアトマイザに近接して位置決めすることと、
をさらに含み、
アトマイザによって生成された赤外線を、赤外線センサを用いて測定することが、アトマイザから光ファイバケーブルを介して受光した赤外線を測定することを含む、請求項 12 に記載のエアロゾル送達装置の温度監視方法。

【請求項 14】

遮蔽装置が、赤外線センサによって画定されたセンサ開口の周りに延在するように遮蔽装置をセンサ組立体に結合することと、
遮蔽装置を光ファイバケーブルの第 1 の端部に結合することと、
をさらに含む、請求項 13 に記載のエアロゾル送達装置の温度監視方法。

【請求項 15】

遮蔽装置をセンサ組立体および光ファイバケーブルの第 1 の端部に結合することが、遮蔽装置をほぼ完全に密閉して光ファイバケーブル内を通過していない赤外線がセンサ開口に進入するのを実質的に阻止することを含む、請求項 14 に記載のエアロゾル送達装置の温度監視方法。

【請求項 16】

第 2 の端部以外の場所で赤外線が光ファイバケーブルに入るのを遮蔽層で実質的に阻止することをさらに含む、請求項 15 に記載のエアロゾル送達装置の温度監視方法。

【請求項 17】

赤外線センサを外側本体内に配置することをさらに含む、請求項 12 に記載のエアロゾル送達装置の温度監視方法。

【請求項 18】

アトマイザによって生成された赤外線を、赤外線センサを用いて測定することが、赤外

線センサからの信号に応答してアトマイザに供給される電流を制御することを含む、請求項 17 に記載のエアロゾル送達装置の温度監視方法。

【請求項 19】

コントローラを設けることをさらに含み、

赤外線センサからの信号に応答してアトマイザに供給される電流を制御することが、コントローラを用いてアトマイザに供給される電流を制御することを含む、請求項 18 に記載のエアロゾル送達装置の温度監視方法。

【請求項 20】

赤外線センサを外側本体の外側に配置することをさらに含み、請求項 12 に記載のエアロゾル送達装置の温度監視方法。

【請求項 21】

光ファイバケーブルの第 2 の端部をアトマイザに近接して位置決めすることは、光ファイバケーブルを外側本体内に挿入することを含む、請求項 20 に記載のエアロゾル送達装置の温度監視方法。